

教 科	国語	科 目	言語文化
履修条件 対象生徒	必修 デザイン科 1 学年		
学習目標	・深く共感したり、豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高める。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもつ。		
学習方法	[授業] ・学習前に現代の小説、韻文などを、大意を捉えるために音読をする。学習後は場面や心情に即した音読をする。 ・古典作品は、脚注や古語辞典を用いて現代語訳する。学習後、現代語で感想を発表する。 [家庭学習] ・教材の音読・古語辞典を使った現代語訳・語句の意味調べ・古典の書写をすることで、授業前の準備をしておく。 [補習・その他] ・補習では、文語文法や漢文の基本句形の学習を行う。 ・読書は国語の力の基礎となる。様々な読書活動を通じて読解力を養うとともに多様な価値観に触れる。		
学習計画 と ねらい	<1学期末考査まで> 現代小説 舟を編む 随筆 『徒然草』 高名の木登り <2学期末考査まで> 随筆 『徒然草』丹波に出雲という所あり 故事史伝 狐借虎威 近代小説 羅生門 物語 『伊勢物語』 筒井筒 故事成語 『十八史略』 管鮑の交わり <学年末考査まで> 小説 葉桜と魔笛 戦争小説 沖縄の手記から 軍記物語 『平家物語』 思想 『論語』 ・作品のストーリーを文脈の中で正確に理解する。 ・先入観によって失敗する人間の姿を古文から読み取る。 ・漢文の短い寓話を読むことで「日本語の中に生きる漢文」の寓意を読み取る。 ・古典を再構成した小説を読み、登場人物の行動や心情を味わう。 ・和歌が男女の間を取り結ぶものとして重要な役割を果たしてきたことを読み取る。 ・古文や漢文、現代の文学を読むことで、それぞれの国や時代において理想とされてきた在り方や生き方について考える。 ・生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		
評価基準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	・現代や近代、古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、読解に必要な語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。	・文学作品について調べたり創作したりする課題において、積極的、意欲的に探究し表現しようとしている。
評価方法	○評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」から総合的な評価を行う。 ○定期考査は、知識・理解を偏重することなく、3つの観点で評価できるよう作問を工夫する。 ○定期考査だけでなく、年間を通じて発表、創作など、生徒の主体的な活動も重視する。		